

空気の入れ方

まず空気を入れる前にやっておくことがあります。



図のように風船の端と端を持って数回引っ張っておいてください。
こうすることで風船が割れにくくなります。
さて、風船を空気を入れるには主に3つの方法があります。

1. ハンドポンプで空気を入れる

初めての方にはこちらをおすすめします。
ハンドポンプは専門店でバルーンと一緒に売っておりますが
ダイソーでも100円で売っております。



まず風船の口にハンドポンプの先を差し込んでください。
あまり深くまで差し込む必要はありません。
その代わり風船の口を指でしっかり押さえておいてください。



ハンドポンプをしっかり引いておいてから、最後まで空気を押し込んでください。
これを繰り返せば風船は膨らんでいきます。

※ハンドポンプによっては引く時にも空気を入れることが出来るものもあります。
というか多分こっちが主流です。

イヌの耳や足を作るときに使うひねり方です。



まず図のように風船を持ってください。



そしてねじりたい箇所を指でグイッとつまんで、へこんだところを右手で時計回りにひねります。このとき風船の表面同士がこすれ合って、ねじったところに穴が開くことがあります。少しだけ引っ張りながらひねった方が安全かもしれません。

3回ぐらいひねっておいてください。

これでバブルが一つできます。

風船一つひねるのに

つまむ→引っ張る→ひねる

という三つの動作が要求されます。

でも大抵無意識にこれをやっているはずなのであまりに気にしないでください。



ひねったところは手を放すとたちどころにバラけてしまうので、次のところをひねる前に**薬指と小指**で最初のバブルをしっかり握っておいてください。



はじめと同じ要領でひねる場所をつまむ→ひねるといった作業を右手だけでこなしていきます。

左手はバルーンを押さえておく役目です。

以後バルーンをひねるのは右手の役目になっていくのですが

ひねる方向はいつも右手の時計回りにしてください。

最初は時計回り、次は反時計回りといった感じにひねると

キャンディーの包み紙のようにクルクルとバラけてしまいます。



次も同じようにひねってください。
相変わらず左手は最初のバブルをしっかり抑えつつ、
次に右手がひねる箇所を残った指で固定して補助してやります。
二番目のバブルと同じ長さになるようにひねってください。



ここでバルーンを2つの束にして持ち替えてください。
持ち替える際に、**今まで左手で抑えていた最初にひねったバブルを放さず**
うまく持ち替えてください。
ここで最初にひねった部分を放すと一気にバルーンが解けてしまいます。



そしてまとめて束をひねってやります。
右と左のバルーンの束がくっつかないようにやはり少し引っ張り合いながら
ひねってやった方が良いでしょう。



はい、これが**たらこひねり**です。

ねずみ



イヌ





9cmぐらいのバブル(4)を作ってください。
これが首になります。



続けて9cmぐらいで5、6と作ってまとめてたらこひねりにしてください。
これが前足になります。



イヌの上半身ができました。



最後に尻尾(10)がそれなりに残るぐらいの大きさで8、9を作ったらこひねりにしてください。



これが基本のイヌです。

けん(剣)



いっぱいに入れない



中に通す



プードル

260の風船に40cmほど空気を入れてください。

ちょっとほぐして風船のしっぽが17cm
余るぐらいです。

